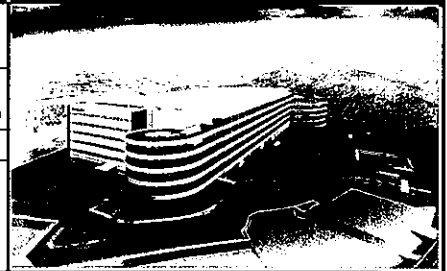


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	プロジスパーク京田辺	階数	地上6F
建設地	京都府京田辺市松井宮田53	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	1,952 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年10月 予定	評価の実施日	2017年12月14日
敷地面積	69,702 m ²	作成者	清水建設 村上雅俊
建築面積	27,948 m ²	確認日	2017年12月14日
延床面積	161,367 m ²	確認者	清水建設 林孝司



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 2.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	71%
③上記+②以外の	71%
④上記+	71%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

音環境	3.2
温熱環境	2.5
光・視環境	3.3
空気質環境	4.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

機能性	4.2
耐用性	3.1
対応性	4.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.6

生物環境	3.0
まちなみ	5.0
地域性・敷地外環境	2.5

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

建物外皮の	N.A.
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

水資源	3.4
非再生材料の	4.1
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

地球温暖化	4.1
地域環境	3.7
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>本計画は京田辺市に計画された物流施設である。生物環境の創出をおこなうため、緑地を豊富に計画し、周辺の景観や生物環境に配慮した計画としている。また、外壁には断熱性能高い外装材を採用し、熱負荷の低減を図るなど省エネルギーにも配慮した計画である。</p>		0
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 内装吸音材を2種類採用した。 化学汚染物質が発生しないように内装材にF☆☆☆☆等級の建材を採用した。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> 十分な階高、空間のゆとり、リフレッシュスペースを確保した。 耐用年数の長い材料を積極的に使用して、建物の持続性に配慮した。 	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地外周部に緑地を設け、生物自然の創出に配慮した。 道路からセットバックすることで周辺まちなみへの圧迫感軽減に配慮した。
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用し、省エネルギー化に配慮した。 高効率な照明器具を導入し、エネルギーの効率的利用に配慮した。 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> 節水型小便器や自動水栓等の採用により、節水に配慮した。 エコマーク認定品やグリーン調達適合品のリサイクル材を使用し、資源の再利用に配慮した。 	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 燃焼設備を設けずオール電化とし、大気汚染防止に配慮した。 十分な駐車場を確保し、周辺道路への交通負荷低減に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃業に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される